

研究代表者
地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター
病院長 光田信明

「メンタルヘルスケアのための研修会の開催促進とその効果の検証」

分担研究者 池田 智明 三重大学大学院医学系研究科 産科婦人科学 教授
研究協力者 相良 洋子 さがらレディスクリニック 院長
田中 博明 三重大学大学院医学系研究科 産科婦人科学 准教授

【研究要旨】

妊産婦のメンタルヘルスケアは妊産婦の自殺予防の観点からも重要である。日本産婦人科医会では、2016年に周産期メンタルヘルスケア事業を立ち上げ、周産期医療におけるメンタルヘルスケアのレベルアップや多職種連携の促進、および親子の愛着形成の啓発に取り組んできたが、中でも「母と子のメンタルヘルスケア研修会」は周産期医療におけるメンタルヘルスケアのレベルアップを図ることを目指しており、現在まで最も力を入れて取り組んできた事業である。本研修会では終了後に参加者にアンケート調査を行い、その結果から参加者の満足度が高いことは把握していたが、ここで履修した経験が現場で生かされているかどうかについては十分な評価は行われていなかった。そこで今回はこれまでに研修会に参加した者を対象にアンケート調査を行い、研修会の有用性と問題点の検討を行った。

対象は2019年～2021年の間に母と子のメンタルヘルスケア研修会を受講し、メールアドレスが確認されている者(1,042名)で、Google フォームを用いたインターネット調査の方法で行った。381名から回答を得ることができ(回収率36.6%)、回答者の内訳は助産師(66.4%)、産科医(17.6%)、看護師(5.8%)、保健師(2.9%)、心理職(2.6%)と続いていた。調査結果から、この研修会は参加者の妊産婦に対する積極的な関わりを促し、要支援妊産婦の発見に貢献していると考えられたが、多職種連携・地域連携および妊産婦のメンタルヘルスの現状把握については課題が残されており、今後はこれらの課題に対して重点的に取り組んでいく必要があると考えられた。

A. 研究目的

日本産婦人科医会では、周産期医療におけるメンタルヘルスケアのレベルアップや親子の愛着形成を促進することを目的に、2016年に周産期メンタルヘルスケア事業を開始した。この中で、母と子のメンタルヘルスケア研修会(以下研修会)の事業は、周産期医療に携わるすべてのスタッフを対象に、入門編・基礎編・応用編の3段階のプログラムを履修することにより、妊産婦のメンタルヘルスのスクリーニングと「傾聴と共感」を主とする基本的なケア、および多職種連携の実践を身につけていただくことを目的としており、今まで最も力をいれてきたものである。研修会は2017年から開催しており、現在では入門編研修会を地域で開催できる形にしたこともあり、2022年3月までに計47回の研修会が開催され、のべ2,707名が参加している。

この研修会は参加者には好評で、今後も開催を促進していく予定であるが、ここでの研修が現場でどのように生かされているかの評価は行われていなかった。そこで今回は今までこの研修会に参加した方を対象にアンケート調査を行い、研修会の有用性と問題点の検討を行った。

B. 研究方法

2019年～2021年の間に母と子のメンタルヘルスケア研修会を受講した方で、メールアドレスが確認されている者(1,042名)を対象に、Google フォームを用いたインターネット調査を行った。調査項目は【資料1】のような内容であり、調査期間は2022年8月30日～9月20日とした。

(倫理審査) 調査方法・内容については日本産婦人科医会倫理委員会の承認を得た。

C. 研究結果【資料2】

(1) 回収率と回答者の背景 (図1)

381名から回答を得ることができた(回収率36.6%)。回答者は助産師が最も多く(66.4%)、産科医(17.6%)、看護師(5.8%)、保健師(2.9%)、心理職(2.6%)と続いていた。その他、精神科医、小児科医、看護教員、産業カウンセラー、保育士、社会福祉士なども少数ながら含まれていた。また、基礎編まで修了していた者が184名(48.3%)、応用編まで修了していた者が76名(19.9%)であった。

(2) 研修会前後の変化

①妊産婦のメンタルヘルスケアについて(図2①-1～6)
6つの設問のそれぞれについて、「そう思う」と「ややそう思う」を併せた割合でみると、1. 妊産婦メンタル

ヘルスケアに積極的に関わることができるようになった(91.9%)、2. 全員を対象とするようになった(93.7%)、3. 要支援者を以前より見つけることができるようになった(87.2%)、4. 行政に情報提供する妊産婦が増えた(75.4%)、5. 精神科にコンサルトする妊産婦が増えた(60.3%)、6. 院内のメンタルヘルスケアの体制が整ってきた(66.4%)であった。

② ケースカンファレンスについて (図2②-1~2)

ケースカンファレンスについての設問についても同様に「そう思う」と「ややそう思う」の割合を足したものとみると、1. 院内でよく行われるようになった(64.8%)、2. 地域でのカンファレンスに参加するようになった(38.3%)であった。

(3) 研修会プログラムについて (図3. 1~4)

これについては「とても良かった」と「やや良かった」を併せた割合でみると、1. e-learning について(77.2%)、2. 面接のロールプレイ(76.6%)、3. グループワークによる事例検討について(82.4%)、4. 精神科によるまとめやレクチャーについて(87.1%)であった。

(4) 今後の研修会についてのご意見(自由記載)(表1)

多くのご意見をいただいたが、以下の4項目にまとめられた。

① 研修会の開催に関するもの：

(研修会の回数を増やしてほしい、何度も受けたい、好きなコースから始められるのがよい、オンライン研修会を増やしてほしい、フォローアップ研修がほしい)

② プログラムの内容に関するもの：

(患者との関り方の学びもあると良い、コーディネーターの養成のためのプログラム)

③ 多職種連携に関するもの

(行政や地域の方とのネットワークがほしい、訪問看護ステーションをもっと活用してほしい、地域の連携を促進するためのメーリングリストがほしい)

④ 現状把握の必要性

(地域での具体例を聞いてみたい、現状報告による実情把握が必要)

D. 考察

2019年から2021年の間に、母と子のメンタルヘルスケア研修会に参加したことがある者を対象にインターネット調査を行い、研修会の有用性と問題点の検討を試みた。

妊産婦のメンタルヘルスケアについての研修会前後の変化では、6つの項目(メンタルヘルスケアに対する積極的な関わり、全員を対象にケアを行うこと、要支援者の発見、行政への情報提供、精神科へのコンサルト、院内の体制整備)の全てにおいて、前向きな変化を感じている者が多かった。特に、メンタルヘルスケアに対する積極

的な関わりと全員を対象にケアを行うこと、の2項目では90%以上の回答者が肯定的に回答しており、研修会への参加が妊産婦のメンタルヘルスケアの重要性や必要性を意識するための動機付けになった可能性が示唆された。また87.2%の回答者が要支援者を以前より見つけることができるようになったと回答しており、意識の変化が要支援者の発見という成果に結びついていると考えられた。しかし、行政への情報提供、精神科へのコンサルトの項目では、肯定的な回答の割合がそれぞれ75.4%、60.3%と減少しており、特に精神科へのコンサルトについては、「そう思う」という回答は23.6%にとどまっており、多職種との連携にはさらなる工夫が必要と考えられた。院内のメンタルヘルスケアの体制整備については、研修会参加者個人の力には限界があると思われるが、それでも66.4%が整ってきたと回答しており、研修会に参加して問題に対する意識が変化することで、施設の体制整備にも積極的に関わることができるようになった可能性が考えられる。

ケースカンファレンスについては、院内でのカンファレンスがよく行われるようになったと回答した者が6割以上あり、また4割近くが地域のカンファレンスにも参加するようになったと回答していた。研修会への参加が妊産婦のメンタルヘルスケアへの積極的な関わりを促進している現れと考えられる。

研修会のプログラムについては、e-learning、面接のロールプレイ、グループワークによる事例検討、精神科医によるまとめやレクチャーのすべてにおいておおむね有用であったとの評価を得たが、特に精神科医によるまとめやレクチャーについては半数以上が「とても良かった」と回答しており、産科領域のスタッフにとっては精神科の視点は新鮮で役に立つものであったと考えられる。

今回の調査では自由記載の形で研修会に対するご意見を伺ったが、その内容は、研修会の開催に関するもの、プログラムの内容に関するもの、多職種連携に関するもの、現状把握の必要性、の4点にまとめられた。研修会の開催については、回数を増やし、自由度を広げ、さらに研修を継続していくための体制が求められていた。またプログラムの内容については、患者との関り方や多職種のコーディネートのためのプログラムに対する要望があり、多職種連携については、行政などのネットワーク作りやその他の支援サービスの活用を期待するご意見が寄せられた。さらに現状把握の必要性として、地域の具体例や実情把握の重要性についての指摘をいただいた。

以上の結果より、日本産婦人科医会が行っている研修会は、参加者にはおおむね好評を得ており、多くの参加者が、研修会後に妊産婦全員を対象としたケアを行うようになり、各施設での体制整備に努め、ケースカンファレンスを行うようになるなど、妊産婦のメンタルヘルスケアに積極的に関わることができるようになり、結果として以前より

要支援者を発見できるようになったと感じていた。そして研修会のさらなる開催についての要望は多く、オンライン研修会やフォローアップ研修など様々な形で研修する機会が求められていた。日本産婦人科医会では、今後は基礎編研修会までを地域研修会の形で行う体制を目指しており、来年度以降は基礎編研修会の開催も増加すると考えているが、継続的な研修を支援していくことも重要であり、今後はフォローアップ研修の形で研修の機会を増やすことも考えていきたい。

一方、多職種連携・地域連携については、研修会後に前向きな変化がみられてはいるものの、個人のレベルでの変化に比べると十分とはいえず、自由記載でも地域でのネットワーク作りやコーディネーターの養成などが求められていた。この点については、研修会の事業だけでは解決できない部分もあるが、地域研修会の際に行政や地域の精神科医との連携を促すようなプログラムを準備するなど、主催者にも働きかけて工夫していきたい。

さらに自由記載では、地域での具体例や妊産婦メンタルヘルスの現状把握に対する要望があった。研修会の事業が妊産婦のメンタルヘルスの改善にどのくらい貢献できているかを把握することは難しく、現状ではまず支援体制を整えることを目標にしてきたが、妊産婦のメンタルヘルスの改善が研修会を含めた周産期メンタルヘルスケア事業の最終目的でもあり、今後は何らかの形でこれを評価できる方法を考える必要がある。

E. 結論

日本産婦人科医会が周産期医療に携わる者を対象に行っている「母と子のメンタルヘルスケア研修会」の効果について、参加者に対するアンケート調査をもとに考察した。この研修会は参加者の妊産婦に対する積極的な関わりを促し、要支援妊産婦の発見に貢献していると考えられたが、多職種連携・地域連携および妊産婦のメンタルヘルスの現状把握については課題が残されており、今後はこれらの課題に対して重点的に取り組んでいく必要があると考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

【資料1】 「母と子のメンタルヘルスケア研修会」参加者へのアンケート調査 (調査項目)

- あなたの職種を教えてください
① 助産師 ②看護師 ③医師(産科・小児科・精神科・その他：
⑥心理職 ⑥その他()) ⑤保健師

- あなたの受けた研修会をすべて回答してください
① 入門編 ②基礎編 ③応用編(指導者講習会)

- 研修会を受ける前と、受けた後で、最も当てはまるものを選択してください。
① 妊婦のメンタルヘルスケアについて
1)積極的にかかわるようになった
(そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない)
2)全員を対象とするようになった
(そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない)
3)要支援者を以前より見つけることができるようになった
(そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない)
4)行政に情報提供する妊産婦が増えた
(そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない)
5)精神科にコンサルトする妊産婦が増えた
(そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない)
6)院内のメンタルヘルスケアの体制が整ってきた
(そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない)
② ケースカンファレンスについて
1) 院内でよく行われるようになった
(そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない)
2) 地域でのカンファレンスに参加するようになった
(そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない)

- 研修会のプログラムについて、いかがでしたか?
① e-learning
(とても良かった やや良かった ふつう あまり良くなかった 良くなかった)
② 面接のロールプレイ
(とても良かった やや良かった ふつう あまり良くなかった 良くなかった)
③ グループワークによる事例検討
(とても良かった やや良かった ふつう あまり良くなかった 良くなかった)
④ 精神科医によるまとめやレクチャー
(とても良かった やや良かった ふつう あまり良くなかった 良くなかった)

- 今後の研修会のプログラムについて、ご意見がございましたらご記入ください。
()

以上です。ご協力ありがとうございました。

【資料2】 「母と子のメンタルヘルスケア研修会」参加者へのアンケート調査 (結果)

図1. 回答者の背景

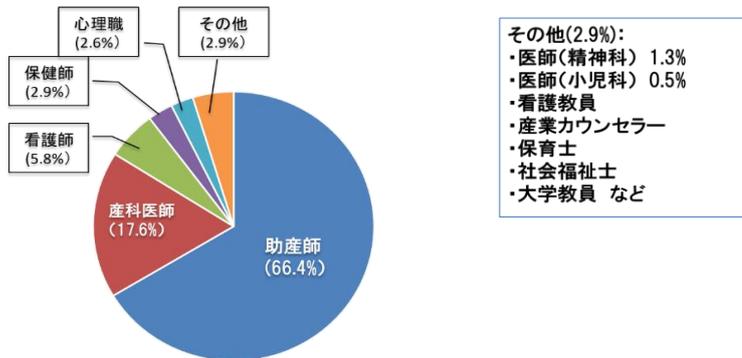


図2. 研修会前後の変化

① 妊産婦のメンタルヘルスケアについて

図 2-①-1.妊産婦メンタルヘルスケアに積極的に関わるようになった

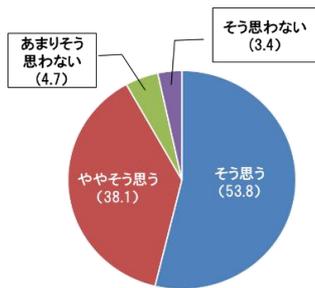


図 2-①-2.全員を対象とするようになった

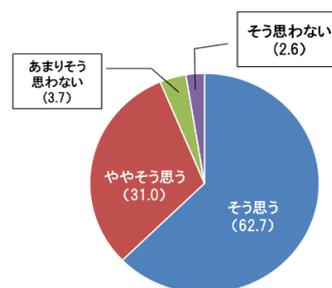


図 2-①-3.要支援者を以前より見つけることができるようになった

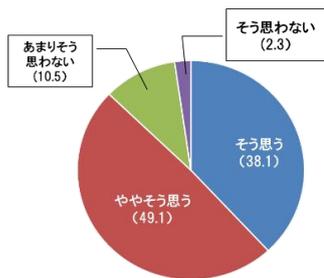


図 2-①-4.行政に情報提供する妊産婦が増えた

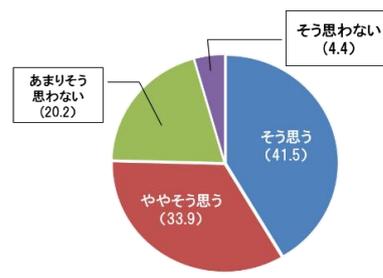


図 2-①-5.精神科にコンサルトする妊産婦が増えた

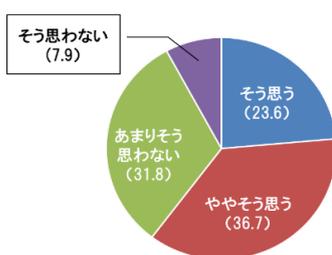
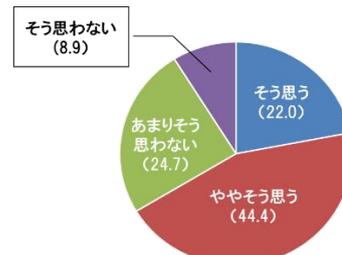


図 2-①-6.院内のメンタルヘルスケアの体制が整ってきた



② ケースカンファレンスについて

図 2-②-1.院内でよく行われるようになった

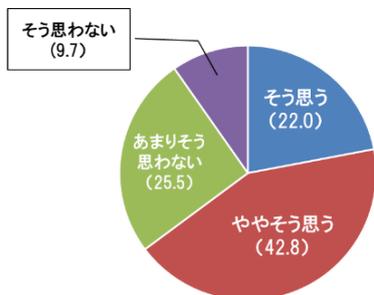


図 2-②-2.地域でのカンファレンスに参加するようになった



図3. 研修会プログラムについて

図 3-1. e-learning について

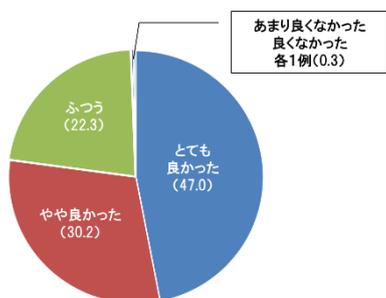


図 3-2. 面接のロールプレイ

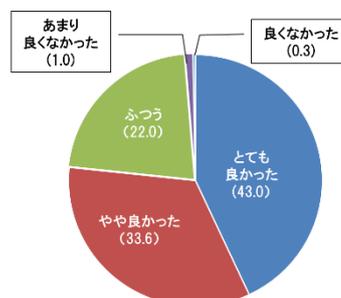


図 3-3. グループワークによる事例検討について

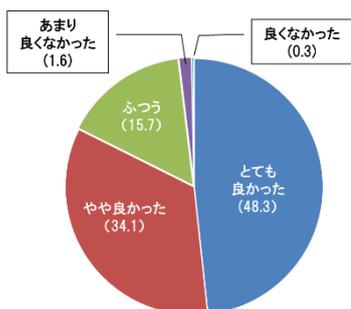


図 3-4. 精神科医によるまとめやレクチャーについて

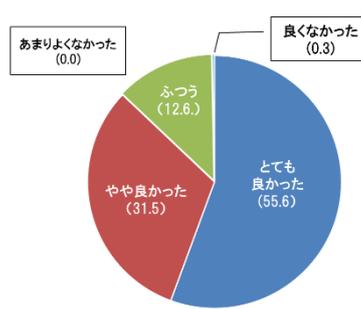


表1. 今後の研修会についてのご意見(自由記載)

・支援者のネットワークが欲しい
・行政の参加者を増やす ・現状報告による実情把握が必要 ・地域の中核スタッフの参加が可能
・地域でのフォローの具体例を色々聞いてみたいです。
・定期的にオンラインで症例検討会や、復習のための講習などが受講できると助かります。
・基礎編や応用編の講座を増やして欲しい
・地方在住のため、オンライン研修会は参加しやすくありがたいです。
・コロナ禍で研修開催がなく残念
・基礎編や応用編の開催数を増やしていただけると嬉しいです。
・オンラインを増やしてほしい。人に勧めたいが、開催数が少なく、また開催地が遠いため進められない。
・e-learning 等でフォローアップ研修があればよいと思います。
・研修情報を今回のアンケート調査のようにメールで知らせていただけるとありがたいです。
・開催が少ない。基礎編受けたいけどほとんどやっていないので残念 できれば続けて受けられるといい
・とても勉強になり、褥婦さんと話をしていると、頭のなかで何かが開けていくのを感じました。 お話できてよかったと言ってくれて機会が増えました。
・自身の啓発にもなるので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします
・研修会開催を増やして欲しいです
・基礎と応用編も受講して、インストラクター支援になりたいと思います。ですから、web で開催してもらえるとありがたいです。また、開催時にお手伝いするにはどうしたらいいですか？
・同じ入門編でも何度も受講できたらより自分の中に落とし込めると思った
・私は小児の訪問看護ステーションに勤務し、産後のフォローアップをしています。メンタルヘルスケアの必要な妊産婦へ産科小児科の指示書での訪問看護、精神科の指示書での訪問看護が利用できることをもっと産科小児科スタッフへ知っていただきたいです。医療と保健の間を訪問看護でカバーできた例が多くあります。医療的ケアが無いからとお母さんへ訪問看護の説明もしない病院が多く残念でなりません。ぜひ、研修会ですすめていただきたいです。
・東海地区での開催をもっとして欲しい
・クリニックから精神科へのコンサルがなかなか思うようにいかないことがあるので導入の方法などがあれば知りたい。
・集合研修で出来ればよいと思うが、Zoom 開催などでも場所を移動することなく聞かせるに受講できるので検討いただきたいです。
・もう少し頻回に地方での研修会が開催されることを望みます
・e-learning 開催をもっと積極的にお願いしたいです
・色々なケースの事例集から学べると良いのではないかな
・指導者として昨年度初回の地域講習会を開催しましたが、参加した助産師からも好評でした。 年に1 回程度引き続き行いたいと考えております。
・オンラインで構わないので、基礎編・応用編を開講してほしいです。どうやって実臨床に生かしていくのかが、私としての今後の課題です。
・元々研修会前よりメンタルヘルスの体制を整備し活動してきたので、わたし個人としては研修会を受けたことでの変化はあまりありませんが、参加した部署のスタッフにはメンタルヘルスを意識する良い機会となった気がします。今後は実際に各施設のメンタルヘルスに関するコーディネートをやる人材の育成などに取り組むようなプログラムが充実されるといいなと思います。応用編を受けても各施設で指導できるかどうかは、かなり差があるように感じますし、研修を1 日受けただけでは難しいと思います。各地域でリーダーシップをとれるような人材が育成されればもっと世の中の女性が救われると思うので今後の活動に期待します。
・母と子のメンタルヘルスは産科だけで終わらない。地域の子育て支援との連携の必要性が明確になると嬉しいです。

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎編、応用編を受講する機会が少なくなったので、機会を増やして欲しい
<ul style="list-style-type: none"> ・助産師であり、公認心理士です。今年度から職場が変わってしまったので、地域連携が必要と思われる妊産婦が増えたかと言う問いは、減ったになります。 助産師なんだから、メンタル面のホォローは心理職に任せれば良い。と言う考えがまだまだ強いように感じれ、中々助産師&心理士の資格が活かしきれていない立ち位置です。今後も多くの医療者に、心理的ケアが必要な対象者の発見の必要性、積極的な関わりができるよう、学びの機会を作っていただきたいです。また、どうしても医療者と、患者の関係は上下関係になりやすく、アドバイスではなく、まず患者の思いを傾聴する関わりが必要であると感じる毎日です。患者との関わり方の学びも有れば、良いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で、対面での実施が難しい状況ですが、研修を通して知識や技術を習得することはもちろんですが、専門職同士がつながるネットワークも大事だと考えます。研修だけで終わるのではなく、その後も意見交換や専門職同士がつながっていきけるような体制が整ってけるとよいなと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・入門編からあまり間隔を空けずに基礎研修を受けたいです
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎編や応用編にも関心があります。北海道でのオンライン開催が叶うことを願っております。
<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討論は、他職種の方々とできる点が意義深い。グループ発表内容をホワイトボード等にメモ程度の記録をしていただくと、あとの発表がしやすいかもしれません。 ・今回のアンケートは職場が病院という設定でしょうか？ 病院とは別の職場なので、予想でしか回答できていないのです。
<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数が少ないのももう少し増やしてもらえると、多くのスタッフが参加できると思います。また、入門編の開催は多いですが、基礎編を受講したいと思って開催回数が少なく受講できません。もう少し地域や回数を増やしてもらえると嬉しいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討論は、様々な意見がでるので大変参考になりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中での連携を取りやすいものにするための、メーリングリストが欲しい
<ul style="list-style-type: none"> ・エジンバラは複数回使わないことが原則と思いますが、定番になりすぎて実施することが産褥検診地域助成の条件になっているのでスクリーニング精度が低くなっていると思う。マタニティーブルーズ評価用紙など、ほかの質問紙も推奨して欲しいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎編、応用編と開催回数が増えると参加機会がふえてうれしいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に継続していけたら いいと感じます 学んだ人だけに偏りがあり まだまだ職場や地域での統一感に至らないのが 課題に感じています 地域の精神科や心療内科 産婦人科医師の認識がまだまだ浅いと感じるので 変わるといいなと思います 私は学ぶことが出来 とても自分も変わりましたしサポートの視点も変わりました ありがとうございます
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎編の開催を希望します。できれば、web で。実習があると、行動制限があるため、どこへでも行けないので。
<ul style="list-style-type: none"> ・開催地や開催頻度を増やしてほしい
<ul style="list-style-type: none"> ・e-learning 等でフォローアップ研修を受講できるとブラッシュアップできると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・入門編以降の研修会の開催が少なく、参加したくても参加出来ない。
<ul style="list-style-type: none"> ・入門編受講後、基礎編の研修がなく、学習が進まないことが残念です。定期的で開催していただくと助かります。
<ul style="list-style-type: none"> ・入門からでも基礎からでも応用からでも参加できるようにしていただくと、その人のレベルにあわせて学ぶことができありがたいと思いました。もともとやっていることについて、前後比較であったため、「あまりそう思わない」につけさせていただきましたが、とてもよい研修プログラムだと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・その後のフォロー研修もやっていただきたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・入門編は受講したが、この後の基礎編が開催されていないので開催を希望します
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で県外に行けないので、中途半端になっています。
<ul style="list-style-type: none"> ・事例紹介が多くあればもっとイメージが付き、対応のヒントになると考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なフォローアップ研修の機会の増設と告知があると嬉しいです（今以上に）